

五戸総合病院での研修を終えて

大阪市立大学医学部附属病院
初期臨床研修医 荒井 恵里佳

10月に外科で研修させていただきました、大阪市立大学医学部附属病院2年次研修医荒井恵里佳と申します。

今まで、比較的都市部で生活してきていたので、この病気の時は何科の先生にかかるという細分化された医療しか経験したことがありませんでした。研修医となってからも、昨年、今年と都市部の急性期の病院でしか働いたことがなく、五戸総合病院での研修では私にとっては新鮮なことがたくさんありました。

まず一番に驚いたのが、入院中の患者様の疾患が術前、術後の方はもちろん、内科的な管理が必要な方まで、多岐にわたっていたことです。実際、診療科の分野も都市部と比較すれば少なく、その分先生方が専門分野以上にカバーされている範囲が多く、先生方の知識の豊富さに感銘を受けました。

また、患者様はご高齢の方が多く、交通機関があまり充実していない地域では、早期に退院することはもちろんですが、退院後の生活を見据えたリハビリ、生活指導が都市部よりさらに重要であることを学びました。普段ならば、リハビリ目的の転院としていたところを、ここでは急性期から慢性期までを担っており、こういったことが地域医療では特に必要とされることなのだと考えました。

方言がわからずに看護師さんに通訳してもらって戸惑いながらの病棟業務であったり、ほかにも、健診センターでの画像の読影、訪問診療、学校健診などに同行させていただいたり、都市部の研修だけでは、経験できなかったことをたくさん経験させていただき、地域研修の一か月間は貴重な時間になりました。

“地域医療”と漠然と言葉でくくってしまうことは簡単ですが、実際に体験してみて初めて分かることも多くありました。1か月では短かったと思うほど濃厚な充実した時間でした。

最後になりましたが、安藤先生、土屋先生、盛島先生をはじめ、病院スタッフの皆様、お忙しい中、ご指導いただきありがとうございました。また、今年は新型コロナウイルスの流行という世界的な大問題が起こっている中で、研修を受け入れてくださった五戸総合病院の皆様、地域の皆様、研修受け入れのために尽力してくださった方々、本当にありがとうございました。五戸で学んだことを、今後の医師生活で生かしていけるようにより一層の努力していきたいと思えます。